

一般社団法人未踏科学技術協会超伝導科学技術研究会
第 85 回ワークショップ
第 1 回ワークショップ(日本原子力研究開発機構受託調査)

「核融合発電実証に向けて ー核融合システムおよび超伝導技術の現状と将来展望ー」

核融合炉の本格的な研究は 1950 年代の旧ソ連で始まりました。日本でも 1961 年に核融合研究が開始され、この半世紀の間に JT-60 (1985 年運転開始)、LHD (1998 年運転開始) などの大型装置が開発され、プラズマを閉じ込めるための超伝導磁石技術も発展してきました。現在、日本を含む 7 極 の国際協力が進められている ITER (国際熱核融合実験炉) 計画では、高さ 14 m、幅 9 m の D 型コイル 18 基からなる超伝導トロイダルコイルなど、過去最大となる巨大超伝導磁石群が開発されています。この実験炉は 2019 年の運転開始を目指し、その後 20 年間運転される予定です。さらに、実験炉で得られた成果をもとに実証炉、商用炉 (発電炉) といった実規模装置へと進んでいきます。今回は核融合システムの専門家に核融合システムの原状 (ITER) と将来展望 (実証炉) について講演頂くほか、実証炉の実現に向けて超伝導技術の課題と取り組みについても講演頂きます。

主催：一般社団法人 未踏科学技術協会 超伝導科学技術研究会
協賛 (予定)：公益社団法人 低温工学・超電導学会
一般社団法人 プラズマ・核融合学会

日時：平成 27 年 1 月 8 日 (木) 13:30~17:20
場所：(一財) 日本航空協会 航空会館 201 会議室
〒105-0004 港区新橋 1-18-1 TEL 03-3501-1272
定員：80 名
参加費：無料 資料代：2,000 円

プログラム (案)：

13:30~13:40	開会の挨拶	超伝導科学技術研究会 副会長 北口 仁
<	座長：谷貝 剛 (上智大学) >	
13:40~14:30	ITER における技術開発と将来展望	日本原子力研究開発機構 井上 多加志
14:30~15:20	核融合炉における燃料系技術について(仮)	日本原子力研究開発機構 河村 繕範
15:20~15:40	休憩	
<	座長：田崎 賢司 (東芝) >	
15:40~16:10	実証炉用大型マグネットに向けた R&W 法の適用 (仮)	古河電気工業 杉本 昌弘
16:10~16:40	核融合炉用 Nb ₃ Al 線材の課題と展望 (仮)	SH カッパープロダクツ 中川 和彦
16:40~17:10	核融合炉マグネットに適用可能な 100 kA 級高温超伝導導体開発の現状と展望	核融合科学研究所 柳 長門
17:10~17:20	閉会の挨拶	超伝導科学技術研究会 会長 下山 淳一 未踏科学技術協会 理事長 木村 茂行

参加お申し込みはこちらから： (<https://www1.snnt.or.jp/fsst/>)

問い合わせ先： 一般社団法人 未踏科学技術協会 超伝導科学技術研究会 担当 大貫、金子
Phone: 03-3503-4681 Fax: 03-3597-0535 e-mail: fsst@snnt.or.jp

<会場地図> <http://kokukaikan.com/about/access>

住所 〒105-0004 東京都新橋 1-18-1 航空会館
電話 03-3501-1272 FAX 03-3503-1375

アクセス

- JR新橋駅 日比谷口 徒歩 5分
- 地下鉄 東京メトロ銀座線・都営浅草線 新橋駅 ⑦出口 徒歩 5分
- 地下鉄 都営三田線 内幸町駅 A2出口 徒歩 30秒



